

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年4月28日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678000193
法人名	有限会社 徳寿苑
事業所名	グループホーム 寿の家
所在地	鹿児島県熊毛郡中種子町牧川1680番地1 (電話) 0997-24-8080
自己評価作成日	令和4年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年4月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では職員採用が決まり次第、初任者研修を行い又、その他の職員も定期的にあらゆる研修に参加しています。入居者及びその家族のニーズに対して利用や様々な相談に応じ、「小さな福祉の積み重ね」を理念に日々のケアについて、きめ細かい援助サービスを行うよう心掛けています。晴れた日にはベランダより屋久島の四季も一望でき、施設敷地内には色々な花木を植えていて四季折々の花や緑を楽しめ、それにより鶯やメジロなどの野鳥が飛来しており、清らかな鳴き声を聴いて四季を感じ、安らぎ寛いで過ごして頂ける様な環境作りに取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所の敷地内には四季折々の花や木があり鶯やメジロが来て季節を感じながら利用者は散歩を楽しんでいる。
- ・管理者・職員は毎朝理念の唱和をしながら日々のケアに取り組んでいる。
- ・コロナ禍以前は地域の運動会や子供相撲の見物に参加しながら地域との交流を図っていた。今は医療機関受診時にドライブに出かけ出会った知人と窓越しの会話を楽しんでいる。
- ・「なんでもノート」を利用し本人・家族とも話し合いを行いながら一人ひとりに即した介護計画を作成している。
- ・かかりつけ医は利用開始以前の主治医のままで緊急時の連携も取れている。訪問看護の協力体制も整っており家族の協力ももらいながら看取りの事例もある。
- ・外出もコロナ禍ではあったがホーム内で「縁日」を開いたりコスモス畑でお弁当を食べたり等、工夫しながら取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ケアの理念「ゆっくり・いっしょに・楽しく」を念頭において可能な限り管理者と職員はその理念を共有して、入居者一人一人に合わせたケアに努めるために実践しています。	理念は事務所・玄関・ホールに掲示し、パンフレットにも掲載している。毎朝礼で唱和しミーティングの時にも話をしている。職員は理念の共有を図りながら日々のケアの実践に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ流行前は校区の「運動会」や「子供相撲」などの見学に赴き、交流に努めていましたが、現在は行事も中止や自粛傾向にあり、あまり出来ていないのが現状です。	年3回地域住民と一緒に草刈りをしている。コロナ禍以前は校区の運動会や子供相撲の見物にも参加していた。一人暮らしの高齢者の見守りネットワークも継続している。先日地域の手芸教室の方が作品を持ってきてくれた。散歩時の挨拶や野菜の差し入れ等もありコロナ禍の中工夫しながら交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	苑内での介護状況を地域の方々に見学して貰うなり、また、地区・校区などの公民館をお借りして介護の仕方・接し方をレクチャー出来たらと思いますが、コロナ禍において地域貢献は自粛状態にあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>コロナ禍でもあり運営推進会議の開催が開かれなかったことも事実であり、職員会議・ケース会議や毎日の朝礼などで職員全員の意見を聞き入れ、入居者へのサービス向上へ活かす取り組みはしている。</p>	<p>コロナ禍で運営推進会議の開催が難しく書面での報告を手渡しで届けている。コロナが治まれば公民館で介護についてのレクチャー等も計画している。外部評価の報告も話をしそこでの意見等をサービスの向上に活かしていきたい。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議で実情を伝えていたが、コロナ禍の影響もあり滞り気味となり、電話などでの相談のみとなっていた。</p>	<p>役場の担当者とは電話で話をすることが多いが書類は窓口まで出かけている。研修会のお知らせも届いていて状況を判断し参加している。連携を取り合いながら協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員会議やケース会議、身体拘束廃止委員会を通して、拘束の見直しを行い、出来る限り拘束を行わないケアに努めるようにはしているが、入居者の動向を観察し危険を防止するためには多少なり必要だと思えます。</p>	<p>マニュアルを基に身体拘束廃止委員会を毎月、職員会議と一緒にやっている。言葉遣いは十分注意しているがスピーチロックなど言ったりした場合はジェスチャーで注意し合っている。玄関にチャイムを設置して利用者の見守りを行っている。日中は施錠せず目配り気配りをして、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で時々ではあるが虐待について話し合いを持ち、身体的なものだけではなく、言葉での暴力もあってはならない事だと思い注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会は持たれていませんが、大切な事だと思うので研修等に積極的に参加し、場面が生じることがあれば、その制度を活用しようと思う。		
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い、理解・納得をして貰えるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に「ご意見通信箱」を設置し、家族等より意見があれば職員会議で議題を上げ話し合い、出来る限り要望に沿ったケアが出来るよう努めている。	利用者からは暮らしの中で話しかけ思いを聞いている。家族からは面会の時、「ご意見通信箱」が玄関に置いてあり、よく意見が入っている。食べ物の件や歯間ブラシ等の要望があり、気づいたことを「なんでもノート」に記録して、ケアの中で取り組める事は即対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議や毎日の朝礼等で意見を聞く機会があり、ほぼ反映出来ている。</p>	<p>管理者は職員会議や朝礼時・食事をしながら意見や要望・提案を聞いている。車いすの買い替えや勤務についての希望・外出支援の場所等の情報を話し合いながら、働きやすい職場作りをめざしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>ベッドや車椅子の状態が古い物が多く、職員らに負担になっているのが現状。他、勤務希望を取り入れて労働時間の相談も行いながら、就業しやすい環境には努力している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>なるべく研修参加を促し、資格試験への参加も出来るように行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>個々の職員は同業者との交流を行っている方も居ますが、コロナ禍もあり、落ち着いたら他の同業者との交流は技術向上の勉強にも役立つので積極的に行いたいと思います。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本的なアセスメントシートに目を通し、ご本人やご家族からの話や日常生活での状態を聞き取り、信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始前に、不安な事や要望を聞くようにしている。現在では電話にて近況報告等をして、安心して貰える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ともご家族とも共に話をして、必要としている支援を考えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ない事を見極めて、出来る事はご本人様に行って頂き、楽しい共同生活を過ごして貰えるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>電話等で近況報告をしている。また、コロナ禍でもあるので、窓越しでの面会を取り入れ、少しでもご家族と顔を見て話せる環境作りに取り組んでいる。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>現在はコロナ禍において蔓延防止区域内に指定されているので、コロナが終息すれば、また面会に来て貰えるように努めたい。</p>	<p>面会は窓越しで行っている。医療機関の定期受診時にそのままドライブに行ったり買い物をしたりしている。知人に会ったら車の窓越しで話をしている。電話の取次ぎ等も行っている。馴染みの関係が途切れないように工夫しながら支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>仲の良い入居者同士の席を近くにし、会話の弾む環境作りを心掛けている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>連絡等があれば、内容に応じて支援が出来る。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	可能な限り希望に沿えるよう話をしたり、職員会議等で話し合いを行っている。	振り返りができるように「なんでもノート」にお茶やおやつの時間に、一人ひとりの思いなどの情報を把握し記録している。利用者自身が自分で思いや意向や希望等を話に来ることもある。困難な場合はアセスメントシートを活用したり家族から話を聞いたりして本人中心の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からご本人の生活状態の話を聞いたり、アセスメントシートの活用により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日誌や介護経過記録・バイタルチェック表を見て、心身状態などの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やケース会議を通して意見を出し合い、現状にあったケアが出来るように努めている。	本人・家族・主治医・職員で話をしながら現状に即した介護計画を作成している。「なんでもノート」に職員が気づいたことや利用者の様子等を記入してケース会議等でも話し合い、毎月のモニタリングにも反映している。見直しは6ヶ月毎に行っているが、状況に応じて見直している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のようにバイタルチェックや排泄リズムチェックを個別に記録しているので、少しの変化も分かるようにしている。また、「何でもノート」を作成して入居者別に気になる事柄を書き記し職員で共有する取り組みも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々合うニーズに対応し、柔軟な支援が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響もあり、施設からの外出も少なく地域資源の活用が殆ど無かったことが現状。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人一人に主治医が居り、定期受診や臨時受診・緊急時の医療を受けられるよう支援している。	利用開始以前のかかりつけ医に受診をしている。職員が受診時に付き添っている。状態や薬が変わったときに家族にも報告している。主治医とは緊急時にも対応おり、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>管理者に相談することが多いが、その都度適切な受診が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>本人様の状態を医療機関側へ明確に伝え、受診や入院・退院時の医療機関との関係作りは行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居者が看取りとなった場合は、可能な限りご本人・ご家族の希望とする支援が出来るよう話し合いを持ち、訪問看護等を利用し終末期に向けた支援に取り組むようにしている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針があり本人・家族の希望する支援ができるように話し合いを行っている。終末期には家族の協力や訪問看護の受け入れの必要についても説明も行っている。コロナ禍ではあったが家族と共に看取りを行った事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>近年ではコロナの影響もあり行っていないので、終息したならば、勉強会と称して行う計画はある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防訓練を通して、避難訓練・避難場所の再確認及び、消火訓練も進んで参加するように努めている。</p>	<p>年2回消防署に来てもらって避難訓練を昼夜間想定で行っている。避難場所の確認や消火訓練も行っている。自動連絡装置・防災無線もあるので地域の協力や情報の共有は行いやすい。一番恐れているのは津波で高台にある小学校への避難など対策を検討している。備蓄は乾パン・米・水・レトルト食品・缶詰等を3日分は確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に応じた対応を心掛け、決して誇りやプライバシーを損ねないように努めている。	一人ひとりに応じた対応をアセスメントシートを基に職員と話をしている。トイレ誘導や入浴時の介助等の声掛けや対応に配慮しプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を読み取り、自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者一人一人のペースを大切にする半面、職員側の都合を優先する場面もしばしばあるのも現状。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に散髪したり、希望に沿った更衣が出来、外出に合った身だしなみや整容で出掛けられるよう努めています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った食材を利用したり、色合いを良くしたり、楽しく美味しく食事が出来、片付け等は出来る方に進んで行って貰えるよう声掛けを行っています。	嗜好調査を行い、旬の食材を使ってバランスや色合いを考えながら職員が調理をしている。利用者は下ごしらえや配膳・下膳・後片付けも一緒に行っていて食事が楽しみなものになるように支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月月初めに1回体重測定を行い、体重の増減により食事の量を調整している。また、水分量は脱水症状を防ぐために、1日1.5ℓ以上摂るよう声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口内はバイ菌の溜まり場であり、毎食後に口腔ケアを行っている。うがいが出来ない方は、口腔用ウエットティッシュを使用し、舌はブラシで職員が落とすようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎回の排泄リズムをチェックするようにしているため、状況に応じて声掛け・トイレ誘導を行っている。また、オムツ対応や排泄の失敗を減らしトイレでの排泄がスムーズに出来るよう支援している。	トイレ誘導は排泄記録をもとに動作やしぐさを見て速やかに声かけして誘導している。習慣化して自力で行かれる利用者もいる。失禁も少なくなりオムツの量も減少している。リハビリパンツから自立した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝夕に自家製ヨーグルト(プレーン)を食べて貰っている。また、入居者個々の下剤薬を利用して便秘回避を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調を確認しながらバイタルチェック表とも照らし合わせながら、隔日で週3日の入浴を行っている。入浴されない場合は、寝る前に下清拭を行い清潔感を保たれるようにしている。	体調確認を行って週3回は入浴できるように声かけを工夫しながら入浴介助を行っている。入浴を嫌がる利用者には入浴剤やみかんを浮かべたり水分を吸って広がるタオル、ボールの中からおもちゃが出てくる物などで楽しめるように支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の体調に合わせて室温やベッドメイキングを調節し、快適に休まれるように支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人がどのような薬を服薬しているか、職員全員が情報共有できるように入居者個人別の「服薬説明書綴」を作成し、誤薬を無くすよう心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の得意・不得意を見極め、催し物のオカズ作りなどを手伝って貰うなり、一人一人が楽しみ且つ張り合いの出る支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍の影響もありご家族の支援があっても、他人との接触を避けるため現在自粛状態にある。</p>	<p>年間計画がありコロナ禍で変更した計画もあった。ホーム内で「縁日」を開いて射的や宝釣り・くじ引きをしたり食事もお好み焼き・焼きそば等を食べて楽しく過ごした。近くの花見やコスモス畑で弁当を食べたり受診の帰りにドライブに行ったり等、工夫しながら日々の散歩や毎月戸外に出かけられるように支援に努めている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>認知症の中核症状である「短期記憶障害」を持つ入居者が多数居り、無くす・忘れる事が発生する恐れがあるので現在は持たせられない状態にある。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙を書く・電話を掛けるなどの要望はご本人様からは無いが、あれば取り次ぐように努めている。また、ご家族からの電話には必ずご本人に替わるよう心掛けている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下など入居者が行き来する場所には障害物になる物は置かずスムーズに移動できるようにしている。また、食堂ホール壁には四季を彩る制作物や塗り絵完成品を貼り、楽しく過ごせる空間作りを心掛けている。</p>	<p>ホールにはエアコン・ベッド・ソファ・大型テレビがあり、窓も大きく部屋全体が明るい。ベランダにもすぐ出入りできる。空気清浄機があり、定期的に感染予防の為、換気もしている。みんなで作った作品や集合写真、季節感のある飾り付けをして居心地よく暮らしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビ鑑賞の好きな方、ゲームが好きな方、塗り絵や図画工作が好きな方、それぞれ仲の良い入居者同士集まって楽しく作業が出来るよう工夫しています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、家族写真や遺影など大切な人の写真を飾ったり、ご本人様が落ち着ける空間になるよう工夫している。また、入居者担当職員が衣替えの準備や清掃を行っている。</p>	<p>ベッド・エアコンは事業所が準備している。寝具等は本人のものを持ってきている。家族の写真や遺影・テレビ・椅子・三味線・仏壇等、本人が使い慣れたものや好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内はバリアフリー化されており車椅子や歩行器での移動も安全に行え、また自力歩行の入居者には廊下やトイレ、風呂場に手摺が設置され安全に歩行や立位が出来るように整えている。他、自分の居室を誇示出来るよう名前が付いている。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない